

ご使用に際して、この説明文書を必ずお読みください。
また、必要な時に読めるよう大切に保管してください。

解熱鎮痛薬 アロピタール錠

△ 使用上の注意

❌ してはいけないこと (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります。)

1. 次の人は服用しないでください
(1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください
(眠気があらわれることがあります。)
4. 服用時は飲酒しないでください
5. 長期連用しないでください



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください
(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
(3) 水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある小児(15歳未満)。
(4) 高齢者。
(5) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
(6) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
(7) 次の診断を受けた人。

心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください

- (1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。
その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
シ ョ ッ ク (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさ等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (フィアランジョン症候群)、 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の激しい症状が、全身の皮膚、口や目の粘膜にあらわれる。
肝機能障害	全身のだるさ、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)等があらわれる。
ぜ ん そ く	

- (2) 5～6回服用しても症状がよくならない場合

[裏面もお読みください。]

〔成分・分量〕 1日量9錠（1錠325mg）中

アセトアミノフェン	900mg
エテンザミド	800mg
無水カフェイン	250mg
プロムワレリル尿素	300mg

添加物として、無水リン酸水素Ca、軽質無水ケイ酸、結晶セルロース、カルメロースCa、ステアリン酸Mgを含有します。

〔効能・効果〕

- 1) 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛（生理痛）・外傷痛の鎮痛
- 2) 悪寒・発熱時の解熱

〔用法・用量〕

次の量を1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用してください。
服用間隔は4時間以上おいてください。

大人（15才以上）	1回 3錠
11才以上15才未満	1回 2錠
11才未満	服用しないでください。

＜用法・用量に関連する注意＞

- (1) 用法・用量を厳守してください。
- (2) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。

〔保管及び取扱い上の注意〕

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。（誤用の原因になったり品質が変わります。）
- (4) 配置期限を過ぎた製品は服用しないでください。
- (5) 錠剤の取り出し方

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部分を指先で強く押して、裏面のアルミ箔を破り、取り出してください。（誤ってそのまま飲み込んだりすると、食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。）



PTPシート取り出し図

＜お問い合わせ先＞

製造元 美吉野製薬株式会社

奈良県吉野郡大淀町大岩692

電話 0745-67-0144

受付時間 9:00～17:00（土・日・祝日を除く）